販売額３年連続１億円突破を報告　園芸メガ団地連絡協議会

園芸メガ団地連絡協議会（高橋裕会長）の実績検討会が２月27日に開かれ、生産者や行政、ＪＡ関係者ら約40人が出席しました。高橋会長は３年連続１億円販売を達成したことに触れながら「今後も園芸メガ団地が白神ねぎの生産・情報発信拠点となるよう努力していく」とあいさつ。また、ふるさと秋田農林水産大賞で農林水産大臣賞を受賞した、園芸メガ団地営農主体の１人である、斉藤洋さんの受賞祝賀会も併せて開かれました。

今年度の園芸メガ団地の実績は、販売額１億5771万円で数量は８万6575ケースとなり、数量は減ったものの単価高に恵まれ販売額は前年度比355万円の増となりました。

▲サテライト型も加わりさらなる生産拡大が図られる

▲種もみを積み込む担当者

うるち米・もち米種もみ１３万キロ配布　経済課

30年産のうるち米・もち米の種もみの配布を能代地区では２月22日から27日まで常盤倉庫と集約倉庫を会場に行いました。二ツ井、藤里を合わせた全地区では約13万７千キロの種もみが配布され、「あきた白神米」の栽培に向けていよいよ春作業の準備が始まってきます。

このうち常盤倉庫では、うるち米の「あきたこまち」や「ひとめぼれ」、もち米の「たつこもち」や「きぬのはだ」が配布され、あらかじめ予約していた数量の種もみを伝票で確認。担当職員が軽トラックなど荷台に種もみを積み込みました。ＪＡ管内では４月中旬頃から播種作業が始まる予定です。

高品質・良食味米の生産へ向けて　営農企画課

高品質・良食味米を生産する技術である「秋田式分げつ理論」の講習会が２月27日に工業団地交流会館で開かれ、生産者ら約30人が参加し、次年度の栽培へ向け理解を深めました。

講習会では、秋田県農業試験場の担当者が、おいしい「あきたこまち」の特徴を示すとともに強勢茎を主体とした穂数確保と有効茎歩合の向上を中心とした生産技術について説明しました。担当者は「登熟期間を通じて養水分吸収能力を高く維持するため土づくりを行ってもらいたい。土作りの土台の上に栽培技術がある。日々、毎年の積み重ねが重要」と生産者に呼び掛けました。

▲講師の話に耳を傾ける生産者

▲疑問点について分かりやすく説明する中村先生

わかりやすい説明で疑問を解消　金融課

年金の仕組みや受給にあたっての具体的な手続きの相談の場として、３月３日と４日の２日間、ＪＡの各支店において年金相談会を開催しました。

このうち、のしろ東支店では社会保険労務士の中村浩三さんが相談に対応しました。年金受給年齢が近くなった方や受給に当たって不安や疑問がある方、年金を受給中だが受給金額に疑問がある方などが相談に訪れ、先生の丁寧な説明やアドバイスで疑問点を解消していきました。ＪＡでは本店・各支店で年金相談を受け付けておりますので、ご不明な点やご相談がある方は、ぜひ窓口までお越しください。

蟹座（6・22～7・22）感情的になりやすい傾向がチラリ。イライラを感じたら、深呼吸を心掛けて。一人の時間を楽しめば、開運に